

日本博総合推進会議（第3回）

議 事 要 旨

- 日 時：令和4年5月12日（木）17：00～17：20
- 場 所：官邸2階大ホール
- 有識者：片岡委員、齋藤委員、島谷委員、橋本委員、高階委員（御欠席）
- 政府等：岸田内閣総理大臣（議長）、松野内閣官房長官（議長代理）、磯崎内閣官房副長官（議長補佐）、若宮国際博覧会担当大臣兼内閣府特命担当大臣（クールジャパン戦略）、末松文部科学大臣、萩生田経済産業大臣、斉藤国土交通大臣、木原内閣官房副長官、鈴木外務副大臣、栗生内閣官房副長官、藤井内閣官房副長官補、四方内閣広報官、都倉文化庁長官、和田観光庁長官

1 開 会

2 議 事

- （1）今後の文化芸術政策について
- （2）「日本博2.0」について
- （3）意見交換

3 総理発言

4 閉 会

（司会：磯崎内閣官房副長官）

1 開会

冒頭、磯崎内閣官房副長官から、以下のとおり説明があった。

- 委員の皆様方には、忌憚のない御意見を頂戴したいと考えているので、御協力のほどよろしくお願ひしたい。
- 高階委員におかれては、本日御欠席となる。
- この会議の公開・非公開の扱いや資料の取扱い等については、参考資料3のとおりとさせていただきますので、御了承願ひたい。

2 議事

(1) 今後の文化芸術政策について

都倉文化庁長官より、資料1に基づき、我が国の文化芸術の新たな政策パッケージについて説明があった。

(2) 「日本博2.0」について

都倉文化庁長官より、資料2に基づき、日本博2.0について説明があった。

(3) 意見交換

次に、意見交換が行われた。主な発言は以下のとおり。

【末松文部科学大臣】

- 先日、経済財政諮問会議において、総理より、文化芸術の成長産業化への取組について御指示をいただいた。
- この御指示を受け、今回、都倉文化庁長官の下で取りまとめられた、「咲き誇れ！日本の文化戦略 WABI（和・美）」に基づき、文化芸術の力で、文化GDPの拡大、文化による地域活性化、その他、例えば、ナイトタイムエコノミーのような新たな方法によるインバウンド観光促進など、経済社会の新しい成長につながるよう、担当大臣として全力を尽くしてまいりたい。
- この文化施策を展開していくためにも、この度、新しくなった「日本博2.0」は重要な施策である。これまでも、関係府省との連携・協力や当初予算、補正予算、国際観光旅客税による御支援を頂いてきた。引き続き、皆様からの御協力のほど、よろしくお願い申し上げる。

【若宮国際博覧会担当大臣】

- 2025年の大阪・関西万博は、コロナ禍を乗り越えた先の、新たな時代に向けた国家プロジェクトであり、文化芸術をはじめとした日本の魅力を世界に向けて発信し、我が国のソフトパワーの強化にもつながる絶好の機会である。
- 日本博の取組と連携し、大阪・関西万博開催に向けて全国的に機運を高めていきたいと考えている。
- 大阪・関西万博の成功とクールジャパンの一層の推進に向けて、政府一丸となって進めてまいりたいので、引き続きの御協力をよろしくお願い申し上げます。

【萩生田経済産業大臣】

- 東京オリンピック・パラリンピックにおいて、全国レベルでの機運醸成の一翼を担った日本博が、財源も含め、これまでの枠組みを維持して、大阪・関西万博の成功に向けた機運醸成を担っていただけることを歓迎する。
- 経済産業省としては、大阪・関西万博も契機として、我が国の文化を改めて世界に発信することで、経済の活性化に取り組んでまいりたい。例えば、オリパラ首長連合から発展的に改組した万博首長連合とともに、我が国の地方文化の発信・創造を、日本博と連携して進めてまいりたい。
- また、博覧会協会では、本年4月から「地域・観光部」を設置しており、全国各地のイベントと連携して、機運醸成に取り組んでいる。経済産業省としては、博覧会協会とともに、こうした取組と日本博の連携をしっかりと進め、多くの方が大阪・関西万博に足を運んでいただけるような仕掛けを作ってまいりたい。
- 引き続き、大阪・関西万博の成功に向けて、関係者と密に連携し、全力で取り組んでまいりたい。

【斉藤国土交通大臣】

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、インバウンド需要が蒸発する等、我が国の観光を取り巻く状況は未だ大変厳しいものがある。
- 観光は、地方創生の切り札、成長戦略の柱である。現時点では外国人の観光目的での入国は認められていないが、今後もインバウンドの重要性に変わりはない。
- 我が国には、内外の観光客を魅了する自然、食などの観光資源があるが、文化、伝統、芸術は、欧米をはじめとする外国人旅行者からも関心が高い観光資源であり、「キラークンテンツ」の一つである。
- 国土交通省としては、文化庁ともしっかりと連携をして、「日本博2.0」の開催の機会を活用するとともに、ポストコロナにおけるインバウンド回復に向けて戦略的に取り組んでまいりたい。

【鈴木外務副大臣】

- 日本博は、外国人に対して我が国の文化を発信する重要な取組であり、外務省としても、在外公館を通じ、海外における日本博に関する対外発信を実施してきている。
- 新型コロナウイルス感染症の状況を受け、各在外公館ではオンラインを活用した日本文化の発信に取り組んでおり、「バーチャル日本博」についても、各在外公館のSNSやホームページ等を通じて、積極的に広報を行ってきた。

- 今後も、2025年の大阪・関西万博へ向けて、「日本の美と心」を海外でしっかりと発信すべく、本日御出席の先生方や関係省庁となお一層連携してまいりたいと思っている。引き続き、御支援、御指導のほどよろしくお願いしたい。

【高階委員(磯崎内閣官房副長官代読)】

- 「日本博」はこれまで、絵画、彫刻、工芸などの展覧会をはじめ、能や歌舞伎など日本の伝統的舞台芸術、さらには日本の各地で続けられているお祭り文化など、日本人の美意識と自然感情に根ざしたさまざまな芸術表現を発信して、来日した外国人のあいだにも大きな評判を得てきた。芸術や文化は、人々の心を結びつけ、豊かにする。
- 政治や経済の世界では、時に複雑な利害得失がからみあって、紛争や分断がもたらされる場合があるが、芸術や文化は人の心を結びつける。破壊ではなく創造を、憎しみではなく喜びを、分断ではなく和解と協調をもたらしてくれるもの、それが「文化の力」にほかならない。
- 私は、かつて大平元総理が御健在であられた時に、元総理が作られた「政策研究会文化の時代研究グループ」に加わって議論をしていたことがある。当時、大平元総理から文化の重要性を言っていたいただき、非常に励みになったことを覚えている。
- 本日、岸田総理のもとで、文化芸術施策の推進のための号令をかけていただけること、大変心強く思っている。

【片岡委員】

- この2年間のパンデミックのために、国際的な文化交流は極めて限定的になったが、世界最大の国際美術展ヴェネチア・ビエンナーレをはじめ、文化の国際交流が再開されている。我が国でも芸術家、文化人が自由に来日し、海外からの観光客が一日でも早く戻ることを切に願っている。
- その中で、2025年の大阪・関西万博をターゲットにした「日本博2.0」は、大変意義のある事業だと感じている。私が専門とする現代アートの領域では、90年代以降、世界各地の多様な文化の再評価が進み、欧米中心に築かれてきた美術の歴史を、多様な地域や民族あるいは性別による複数のモダニズムとして書き直そうとする動きが加速化している。
- 日本は、古来の伝統と最新のテクノロジーが見事に共存した極めてユニークな文化を有しており、この多岐的な文化を、漫画、アニメといった発信だけに依存することなく、いかにバランスよく発信していくかが重要だと思っている。ただ一方で、総花的な予算配分だと、中核となる事業が見えず、国内

外の芸術家が参画する、どのような事業が日本博なのかということが見えにくくなるということもあると思うので、何らかの象徴的な事業を複数検討されると良いと思う。

- 近年は、シンガポールや香港など、極めて大規模かつ総合的なミュージアムを創設し、国際的にも注目されている地域がある。このように飛躍的な発展を遂げるアジア太平洋地域の中で、歴史的には、日本は先行して近代化を遂げてきたが、今では若干先を越されている感もある。
- 改めて、この地域全体における文化的な貢献のために、日本の価値創造に加えて、トランスナショナルな交流を通して、アジア太平洋地域全体における日本の存在感あるいはリーダーシップを発揮すべきであると考えている。
- 「日本博2.0」の事業は、2025年をターゲットにはしているが、中長期かつグローバルな視点で日本の文化政策のあるべき姿を改めて考える機会になることを願っている。

【齋藤委員】

- 「日本博」は、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、いろいろな施策をやられてきたが、認知度も非常に高く、たくさんの地域が参加し、いろいろな伝統文化だけではなく、新しいメディアアートや、コンピューターを使った表現、音楽など、様々なことが展開されてきたと思う。
- ただ、新型コロナウイルス感染症で大きな打撃を受けたということもあり、東京オリンピック・パラリンピックから2025年の大阪・関西万博に向けて、このような形で「日本博2.0」としてアップデートするのは、非常に大きな意味があると思っている。
- 大阪・関西万博は、大阪・関西がメインの会場になると思うが、「日本博2.0」に関しては、日本全国が大きな会場になるということに大きな意味があると思っている。今まで、文化と経済というものが、なかなか結びつきづらかったところもあると思うが、これからは、観光を介してであるとか、もしくはアウトバウンドする産業として、大きく成長ができるような道筋を、DXも手伝って立てていければと思う。
- 「日本博2.0」を2025年に向けて盛り上げていくとともに、それ以降も続けていくような道筋を作っていければと思う。

【島谷委員】

- これまで文化芸術については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、大きく制限されてきたが、ようやく7月以降、来館者も増えてきた。これからも安全、そして安心して鑑賞してもらえる工夫を凝らしながら人々の心を

支え、また、海外からの日本への関心が失われないよう、日本の美しさや、良さを発信し続けていく必要があるかと思っている。

- そして、本日、このように日本博が「日本博2.0」として岸田総理のもとで新しく生まれ変わり、文化庁の政策パッケージとともにバージョンアップした「日本の美と心」というテーマで、力強く打ち出されたことを私はとてもうれしく受け止めている。
- 博物館、美術館として、これまでも日本博に率先して取り組んできた。その中で、分野連携や関係者のネットワークが生まれてきている。今後、文化財等の保存、そして活用をさらに進めてまいりたいと考えている。博物館、美術館としては、これを今後も推進し、貢献してまいりたい。

【橋本委員】

- 日本博が次のステップに進むに当たって、ステレオタイプな日本であったり、私たち自身がこんな日本であろうとたかをくくってしまっている日本ではなく、私たち自身が驚きを持って再発見する日本であったり、世界の方々と一緒に見つけ直す日本というものがあろうかと思う。
- そういったものを、京都、奈良だけではない地域や、時代、あるいはそれを担う人の属性、性別、世代も異なるところから発信する日本、私たちが好奇心を持って発見し直す日本というものが打ち出せていければ、これまで以上に魅力的なプロジェクトになるのではないかと思っている。そして、日本の独自性ととも語りられるべきだと思うのは、「共有しているもの」だろうと思う。
- これまでアジアの中での日本のプレゼンスについて語られてきたわけであるが、漢字文化圏の中に生きる私たちが、ほかのアジアの国々と共有しているものや、共有しながら、ほかとは違うかたちに育ててきたものがあるとするならば、それはどうしてなのか、どうやって咀嚼してきたのか、今、我々の長所になっているものは何なのか、そして、それをアジアにいかにか還元していけるのかといったことを考えることも、今回の大きなテーマになろうかと考えている。
- そして、最後に、既に皆さん御承知のとおりかと思うが、文化が芽吹くまでには時間がかかるので、その評価も含めて長い目で見ていただければと思う。

3 総理発言

(報道関係者入室)

岸田内閣総理大臣より、以下のとおり発言があった。

日本の文化・伝統・芸術は、長い歴史の中で育まれた比類なき素晴らしい宝であり、脈々と伝わるこれらアートやエンタメ等を、世界へ発信していくことは、ますます重要である。

本日報告のあった、「グローバル展開」、「DX推進」、「担い手の基盤強化」、「文化財の保存・活用」の4本柱を軸に、関係省庁あげて施策を検討し、できるものから速やかに実行に努めてほしい。

中でも「日本博2.0」は「日本の美と心」を中核としつつ、様々な方々の参画で、新しい価値創造を進め、文化の力で、社会課題の解決と経済社会の新しい成長に挑戦する重要な政策となる。

文化庁を中心に、関係省庁一体となって、2025年の大阪・関西万博に向けて、「日本博2.0」により社会をシフトアップしていくよう、積極的な取組を進めてほしい。

(報道関係者退室)

4 閉会

(以上)